

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月11日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03011

研究課題名（和文）未刊史料に見る幕末・明治初期の日本におけるイタリアの立場と役割

研究課題名（英文）The position and role of Italy in the Bakumatsu and early Meiji Japan - Through the analysis of unpublished documents

研究代表者

BERTELLI Antonio (BERTELLI, Antonio)

大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・准教授

研究者番号：60598431

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：この3年間で、主にイタリアのローマ、フィレンツェ、トリノなどで新たな未刊史料（公文書や私文書）を収集できた傍ら、幕末・明治初期の日伊関係、日本を訪れたイタリア人商人ジャコモ・ファルファラとピエトロ・フェ・ドステイアーニ、そして1869年6月に日本の内地を訪れたイタリア公使夫人マティルド・サリエ・ド・ラ・トゥールが遺した史料を中心とした研究発表を国内（東京、神戸、仙台など）、そして海外（イタリア、ロシア、米国、イスラエル）で行うことができた。イタリア、トリノ県で行われた日伊交流史と絹を中心とした展示会も行うことができた。また、研究成果を数々の学術論文、そして著書（共著）という形で公開できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は幕末・明治初期の日本と新生イタリア王国との外交・貿易関係の知られざる側面を明らかにし、日本の国際関係史の視野を広めることを目指す。イタリア、そして日本の古文書館および個人書庫で眠っている貴重な日本関係史料（書簡、日記、旅行記など）を発見・分析・公開することによって、幕末・明治初期に日本を訪れたイタリア人たちの「日本観」を明らかにするだけでなく、当時の日本におけるイタリアの立場と役割の重要性を明らかにすることができるでしょう。この3年間で獲得できた新たな史料と知識を活かした幕末・明治初期における日伊交流史を中心とした専門書の刊行に向けて、研究を進めているところである。

研究成果の概要（英文）：During the last three years, I could gather some new unpublished documents mainly in Roma, Firenze and Torino (Italy). At the same time, I could present the results of my ongoing research about the Italo-Japanese Relations in the Bakumatsu and early Meiji Era and about the precious, newly-found documents left to us by the Italian traders who visited Japan at that time, such as Giacomo Farfara and Pietro Fe' D'Ostiani, and by the Italian Minister Plenipotentiary's wife Mathilde Sallier de La Tour, who visited the inner regions of Japan in 1869. These presentations were made both in Japan (Tokyo, Kobe, Sendai, etc...) and overseas (Italy, Russia, United States and Israel). Also, I had a chance to organize, cooperating with other Italian and Japanese scholars, two exhibitions in Torino about early Italo-Japanese relations and silk trade. Finally, I could also publish different articles about my research topics on different magazines and books published in Japan and overseas.

研究分野：幕末・明治初期における日伊交流史

キーワード：幕末 明治初期 日伊交流史 駐日イタリア公使 マティルド・サリエ・ド・ラ・トゥール ジャーコモ・ファルファラ ピエトロ・フェ・ドステイアーニ 蚕種貿易

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は幕末・明治初期の日伊交流(外交・貿易関係)の歴史に焦点を当て、国内外で発見した未刊の一次資料を主な材料として利用し、同時代の日本におけるイタリアの立場と役割を明らかにすることを目指す。申請時(2015年10月時点)の背景は以下の通りである。

幕末・明治初期に日本とイタリアの間に貿易関係が隆盛を極めていたことを知っている人は非常に少ない。日伊修好通商条約が締結されたのは1866(慶応2)年8月であるものの、ヨーロッパにおいて猛威を振るう蚕の病気「微粒子病」による危機を乗り越えるためにイタリア人蚕種商人は1863(文久3)年から渡日をはじめ、無病で良質の蚕種を入手しようとした。1867(慶応3)年から、イタリアと日本は本格的に国交を始め、公使と領事が日本に派遣されると共に、毎年夏と秋にかけて、日本を訪れるイタリア人蚕種商人の数が急激に増加した。

1860年代後半からこの商売の規模は目覚ましい成長を見せた。蚕種の輸出額は日本の輸出総額の23%以上を占める年もあり、そのおよそ7-8割はイタリア市場に流れるものだった。この貿易関係は養蚕製糸業に依存するイタリア経済を支えながら、日本が近代化を成し遂げるために必要としていた膨大な収入を確保させていたため、両国にとって極めて有益で、重要なものだったとみられる。この貿易は微粒子病を克服するための予防策(顕微鏡検査)が普及し始めた1880年代初頭まで続いたため、この20年間は正に日伊交流の黄金時代と言っても過言ではない。蚕種貿易が盛んだったため、この時代には大勢のイタリア人が来日していた。確認されたおよそ150人の蚕種商人以外にも、彼らの活動を擁護・後援するために駐日イタリア公使や領事もイタリア政府によって日本に派遣された。彼らは日本政府と交渉し、イタリア商人の便宜を図るといった重大な役割があった。また、東アジアにおけるイタリアの権威を高めるべく、駐日外交団の依頼に応じて、イタリア政府は定期的に日本に軍艦を派遣することもあり、訪日する軍人も少なくなかった。これらの人物は大きな変化を迎える日本を注意深く観察し、書簡、日記、覚書、刊行物により、我々に「外から見た日本」、そして「幕末・明治初期の日本におけるイタリア」に関する貴重な情報を提供している。

2. 研究の目的

申請時(2015年10月時点)の研究目的は以下の通りである。

第一に、申請時に、2013(平成25)年4月から2016(平成28)年3月まで、日本学術振興会の科研費(若手研究B)の援助を受けながら、今まで行ってきた研究(博士論文、学術雑誌や専門書に掲載した論文や記事)をまとめ、まだ刊行されていない幕末・明治初期における日伊外交・貿易関係に関する学術専門書の執筆を進めているところである。この専門書で、イタリア側や日本側の一次史料(主に未刊史料)の徹底分析によって、幕末・明治期における日伊関係の知られざる側面と事実を浮き彫りにしたい。第二に、申請者が2012(平成24)年に入手し、2015(平成27)年にイタリア(第39回AISTUGIA大会)、そして日本(イタリア学会)で初めて公開した未刊史料、イタリア商人ジャコモ・ファルファラ(Giacomo Farfara)の『日本北部旅行日誌』(Giornale di un viaggio nel Nord del Giappone)を中心とした研究を進めたい。第三に、申請者は2015年3月に入手した初代駐日イタリア公使サリエ・ド・ラ・トゥール伯爵の末裔の個人書庫に保管されている公使の妻マティルド(Mathilde)伯爵夫人の未刊記録(主に友人や親せきなどに日本から送ったフランス語文の書簡)を中心とした研究を進めたい。1867年から1870年まで日本に滞在した伯爵夫人マティルドの記録は大変興味深い私文書であり、横浜・江戸での生活、1869年6月に行われた蚕種商人らの日本内地旅行、初代公使の任務に関する多くの貴重な情報が収録されている。また、これは明治維新の日本を目撃した数少ない女性の一人による記録であるため、この一次史料を中心とした研究を進め、その歴史的重要性を強

調したい。**第四に**、申請者が2015(平成27)年9月に、1870年から1874年にかけての間、数回日本へ赴いた蚕種商人且つ第二代駐日イタリア公使アレッサンドロ・フェ・ドスティアーニ伯爵(Alessandro Fè D'Ostiani)の兄弟であるピエトロ・フェ・ドスティアーニ(Pietro Fè D'Ostiani)の未刊記録を発見した。これは後年に書いたとみられるノート(214ページの手稿)である。その中で日本関係の記述だけでなく、蚕種商人という職業に関する情報も多々含まれているため、公開する価値が十分あると考えられる。

本研究の最終目的は以下の通りである。**第一に**、忘却された幕末・明治期の日伊交流史を書くために不可欠である多くの**一次史料**(外交官の報告書、軍人や商人の書簡や日記など)は現時点で、まだイタリアや日本の古文書館や資料館、そして個人の書庫で眠っている。入手困難な史料は多々あると思われるが、全く新しい史料を発見、そして分析することによって、**ゼロから歴史を書き、徐々に日伊交流史の知られざる側面を解明していく**ことは本研究の醍醐味、そして最終目標である。**第二に**、現在の日本外交史は主に英国・米国・フランスの活動を中心に扱うものである。駐日イタリア外交官の独特な立場を観察しながら理解してみると、視野を広め、幕末・明治期の**日本外交史を新たな観点から見る**ことができるようになると考えられる。**第三に**、不明な点の多い日伊関係の原点とみなすことができる、幕末・明治期の日本におけるイタリアの立場を明らかにすれば、**20世紀、そして今日の日伊交流・外交史の性質をより深く理解**できるようになるのではないかと考えられる。

3. 研究の方法

申請時(2015年10月時点)の研究方法は以下の通りである。

平成28年度 **2016(平成28)年は、日伊修好通商条約締結、そして2018(平成30)年は明治維新の150周年に当たる。**したがって、申請者が2013(平成25)年度から2015(平成27)年度までの3年間に発見し、分析した史料を2016(平成28)年から2018(平成30)年にかけて日本国内外で開催される予定の研究会において、招待講演、学会発表、学術論文および学術専門書という形で研究成果として発表する予定である。申請研究の目的を達成するために、主に**一次史料の収集と分析**が最も重要である。念入りに史料調査を行うことにより、幕末・明治初期の日本の実態を再現できる未刊の一次史料を集め、実証的に比較検証しながら、日伊交流史の知られざる側面を解明する。日伊修好通商条約締結の150周年である平成28年度は、在東京イタリア大使館、領事館、在東京イタリア文化会館、そして日本国内およびイタリアの大学などにおいて、研究会やシンポジウムなどのイベントが開催される予定である。同時に、今年度中に、2015(平成27)年度に初めて公開したジャコモ・ファルファラの『日誌』という極めて興味深い手稿(全57ページ)を中心とした研究を進める予定である。

平成29年度 今年度中には、トリノで発見した蚕種商人ピエトロ・フェ・ドスティアーニの記録をイタリア、そして日本で初めて公開し、その内容をまとめ、ピエトロ・フェの日本における活動及びこの貴重な一次史料の歴史的 중요性についての学術論文を仕上げる予定である。特に、**彼の兄弟だった駐日イタリア公使アレッサンドロ・フェ・ドスティアーニ伯爵との関係**を浮き彫りにする予定である。そのために、イタリアへ赴き、そこで更なる史料調査を行う予定である。

平成30年度 本年度において、駐日イタリア公使ド・ラ・トゥール伯爵夫人が遺した書簡などの興味深い日本関係史料を徹底的に分析し、彼女の日本における経験を中心とした論文にまとめる予定である。そのために、イタリアや日本で収集してきたイタリア公使・領事による公文書だけでなく、伯爵夫人の友人だった商人ジャコモ・ファルファラおよびピエトロ・サヴィオの書簡や記録などを利用する予定である。必要に応じて、トリノ県にあるド・ラ・トゥー

ル伯爵の末裔の個人書庫などを再び訪れ、更なる調査を行う。

4. 研究成果

平成 28 年度 日伊国交開始 150 周年にあたる 2016 年度には、日本国内外においてさまざまな研究会、シンポジウムやイベントが開かれたため、多くの研究発表や報告を行う機会があった。2016 年 9 月に、神戸大学で開催された EAJIS 研究会において、イタリア人外交官の日本における立場と役割についての発表（英語によるもの）を行った（学会発表その ）。同年 10 月に、東京のイタリア文化会館において開催された『日伊国交 150 周年—日本及びイタリアにおける過去・現在のビジネス法』というフォーラムにおいて、日伊修好通商条約の歴史と経緯を中心とした発表（日本語によるもの）を行った（学会発表その ）。11 月 3 日、4 日にイタリア共和国、ナポリ大学で開催されたシンポジウム『Bakumatsu-Meiji Symposium - Doing Research on Bakumatsu and Meiji Japan in the 21st Century』においては、戊辰戦争時の新潟におけるイタリア人蚕種商人の活動を中心とした報告（英語）を行った（学会発表その ）。また、11 月に東京のイタリア文化会館で毎年開かれる『イタリア語研究の集い』、そして 2017 年 2 月 11 - 12 日に東北大学で開催された『歴史資料学と地域史研究』というシンポジウムにおいて、初代イタリア公使夫人マティルド・サリエ・ド・ラ・トゥールが遺した数々の未刊史料（記録やスケッチ）について発表した（学会発表その ）。これらの発表に際して、多くの研究者から貴重なアドバイスを得て、彼らとの大変有意義な情報交換を行うことができた。おかげで、イタリア、日本における資料調査旅行に際して、今後の研究に役立つ新たな史料を発見できた。最後に、2016 年 10 月に刊行された『イタリア学会誌』に、研究論文「イタリア商人ジャコモ・ファルファラの未刊日誌—戊辰戦争（1868-69 年）の北日本の旅より」を掲載できた（雑誌論文その ）。

平成 29 年度 本年度は、幕末・明治初期における日伊交流史を中心とした学術専門書の作成を続ける傍ら、イタリアと日本で新たな未刊史料を収集できた。また、以下の成果を収めることができた。まず、初代イタリア公使の妻・マティルド・サリエ・ド・ラ・トゥールが遺した未刊史料（1869 年に行われた養蚕視察団の日本内地旅行を中心とした日誌やスケッチ）をめぐる研究に関してはイタリア語による論文を発表することができた（雑誌論文その ）。また、この史料は外国人女性が日本内地旅行に際して書いた最古の史料であることを強調して、8 月 12 日（朝刊の一面）30 日に、公使夫人の史料とその歴史的背景に関する記事・寄稿文が掲載された。次に、幕末・明治初期の日伊関係全般に関して、神戸大学において開催された国際シンポジウムで英語による発表を行う機会があった。（学会発表その ）続いて、1870 年から 1874 年まで日本を訪れた、第二代駐日イタリア公使の兄弟でイタリア人蚕種商人ピエトロ・フェ・ドスティアーニが遺した未刊回想録の手稿を、イタリア・ヴェネツィア大学で開かれた伊日研究会大会で初めて公開することができた（学会発表その ）。更に、2017 年 7~10 月にイタリア・トリノの東洋美術館（Museo d'Arte Orientale）で開催された「Per un filo di seta」（「一本の絹糸のために」）という日伊交流史の黎明期に関する展覧会の準備・専門的サポート（展示品パネルやカタログの内容を執筆するなど）を行う傍ら、9 月 18 日に、同美術館でイタリア語による講演を行った（学会発表その ）。最後に、2018 年 3 月 2 - 3 日に、ロシアのサンクトペテルブルグ国立大学において、明治維新の 150 周年を祝った国際シンポジウムが開催され、その際は戊辰戦争中の日本を旅したイタリア武器商人ジャコモ・ファルファラと日本人商人伊勢屋朝吉を中心とした発表（学会発表その ）を行った。この発表の史料は論文として、同大学が刊行した論集に掲載されることになった（雑誌論文その ）。

平成 30 年度 本年度は、幕末・明治初期における日伊交流史を中心とした学術専門書の作成を継続しながら、今後の研究に役立つ新たな未刊史料を収集できた傍ら、研究成果を国内外で発表することができた。主な研究成果は以下の通りである。まず、2018 年 7 月にイタリアで刊行された一般著書「Riflessioni sul Giappone antico e moderno III」において、「Il giornale di un viaggio nel nord del Giappone di Giacomo Farfara」(ジャーコモ・ファルファラの日本北部における旅行日誌) というイタリア語による学術論文が掲載されました (図書その)。次に、イタリア・ピエモンテ州、ラッコネージ村 (ラッコネージ城) において 2018 年 9 月 14 日 ~ 11 月 20 日に開催された展示会「SETA - Il filo d'oro che uni il Piemonte al Giappone」(絹 ~ ピエモンテと日本を結んだ黄金の糸) の学術委員・出品者として活動した。開会イベントに明治維新前後の日伊関係を中心とした口頭発表 (学会発表その) を行い、また、この展示会のカタログ (同名) (図書その) の編集・執筆活動に協力した。続いて、1873 (明治 6) 年にイタリア王族と共に来日した際にイタリア海軍将校カミッロ・カンディアニ (Camillo Candiani) が遺した貴重な一次資料 (書簡) がイタリアで書籍として刊行された。その際、書簡本文の監修、序文そして日本とその文化および幕末・明治史に関する脚注の執筆を担当した (図書その)。更に、アメリカ共和国・ニューヨークの Stony Brook University、そしてイスラエルのテル=アビブ大学において開催された国際シンポジウムに参加し、幕末・明治初期をめぐる研究発表 (英語) を行いました (学会発表その)。

最後に、2019 年 2 月 15 日に吉川弘文館によって刊行された学術専門書『幕末維新期の日本と世界 - 外交経験と相互意識 -』(友田昌宏編) において、論文「初代駐日イタリア公使夫人の明治二年日本内地紀行 - 未公刊手稿とスケッチアルバムの分析から」を第 2 部、第三章 (167-195 ページ) として掲載した (図書その)。

「結論」より 「最後に、著者が行った調査の結果によれば、マティルド伯爵夫人が遺した旅行記とアルバムは外国人が足を踏み入れたことのない日本の内地を描いた西洋人女性による初めての記録であると考えられる。ちなみに、マティルドの旅行記とスケッチは最古の西洋人女性による日本内地における旅日記とされていたイザベラ・バード (Isabella Bird、一八三〇 ~ 一九〇四) の名作『日本奥地紀行』(Unbeaten Tracks in Japan) よりおよそ一〇年前に書かれたことが注目に値する。マティルドは、封建制が近代化・欧米化の烈風に吹き飛ばされる前の日本を目の当たりにし、それに心を揺さぶられ、この非常に刺激的な経験から生まれた思いや感情に誘導され、西洋の影響をほとんど受けていない日本の一部を鮮明に描く機会をつかんだのである。右の理由に基づいて、マティルドの冒険からちょうど一五〇周年が経とうとしている今は、彼女が遺した旅行記、スケッチ、およびその他の日本関係史料を一括に刊行物などという形で公開されることは大変有意義であると考えられる。」

また、この 3 年間で幕末・明治初期における日伊交流史を中心とした学術専門書の執筆活動を続けることができたが、新たな史料の発見、そしてマティルドの書簡およびスケッチを中心とした研究活動のため、刊行が延期される見込みである。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 3 件)

Bertelli Giulio Antonio, *The activity of Italian trader Giacomo Farfara and his trips in northern Japan during the Boshin War (1868-69) - Focusing on Italian and Japanese primary sources -*, *Saint Petersburg State University - ISSUES OF JAPANOLOGY*, Vol.7, 2018 年 02 月, 学術論文, 査読あり, 135-148 ページ

Bertelli Giulio Antonio, *Eleganza e coraggio - La contessa Mathilde Sallier De La Tour in viaggio nell'interno del Giappone (1869)*, *Atti della Settimana della Lingua Italiana nel mondo 2016 - L'italiano e la creatività: marchi e costume, moda e design*, 2017 年 07 月,

<http://www.iictokyo.com/ryugaku/settimana/2016.html>, 学術論文, 査読あり, 44-56 ページ
ベルテッリ・ジュリオ・アントニオ「イタリア商人ジャコモ・ファルファラの未刊日誌—戊辰戦争(1868-69年)の北日本の旅より」, 『イタリア学会誌』, 第66号, 2016年10月, 学術論文, 査読あり, 21-52 ページ
〔学会発表〕(計12件)

Bertelli Giulio Antonio, *The Meiji Restoration through the eyes of a western woman*, *The West in Japanese Imagination / Japan in Western Imagination: 150 Years to the Meiji Restoration*, 2018年12月, <https://iajsconference.blogspot.com/>, 国際会議・研究発表

Bertelli Giulio Antonio, *IT-ALIENS in Meiji Japan: Italians Discovering Japanese Language in the Early Meiji Era*, *Italy and East Asia: Exchanges and Parallels - Oct.11-13*, 2018, Stony Brook University, New York, U.S., 2018年10月, 国際会議・研究発表

Bertelli Giulio Antonio, *Italiani ai confini del mondo - Diplomatici, commercianti e ufficiali della Regia Marina in Giappone prima e dopo la restaurazione Meiji*, *SETA - Il filo d'oro che uni' il Piemonte al Giappone - Racconigi*, 15 settembre 2018, 2018年09月, 研究発表

Bertelli Giulio Antonio, *The activity of Italian trader Giacomo Farfara and his trips in northern Japan during the Boshin War (1868-69)*, *International conference devoted to the 150th anniversary of the Meiji Revolution in Japan*, Saint Petersburg State University, 2-3 March, 2018, 2018年03月, 国際会議・研究発表

Bertelli Giulio Antonio, *Italiani in Giappone a cavallo della Restaurazione Meiji: diplomatici, commercianti e ufficiali della Real Marina*, *PER UN FILO DI SETA. 1867, l'Italia in Giappone (展示会)*, 2017年09月, 研究発表

Bertelli Giulio Antonio, *I viaggi in Giappone e Cina del semaio Pietro Fè D'Ostiani tra il 1870 e il 1875 - un memoriale inedito*, 第41回 AISTUGIA (伊日研究会) 大会, 2017年09月, 国際会議・研究発表

Bertelli Giulio Antonio, *An unknown world - Italian diplomats and traders in Japan between the Bakumatsu and early Meiji era*, *NEW TRENDS IN JAPANESE STUDIES*, Kobe University, 2017年08月, 国際会議・研究発表

ベルテッリ・ジュリオ・アントニオ「初代駐日イタリア公使夫人マティルド・サリエ・ド・ラ・トゥールの未刊記録に見る幕末・明治初期の日本」, 東北大学東北アジア研究センターシンポ『歴史資料学と地域史研究』, 2017年02月, 国際会議・研究発表

Bertelli Giulio Antonio, *Eleganza e coraggio - La contessa Mathilde Sallier De La Tour in viaggio nell'interno del Giappone (1869)*, *Giornata degli Italianisti (イタリア語研究の集い)*, 13 Nov.2016, Istituto Italiano di Cultura, Tokyo (於: イタリア文化会館・東京), 2016年11月, 国際会議・研究発表

Bertelli Giulio Antonio, *The Niigata Connection: Italian Silkworm-Egg Buyers and Weapon Traders during the Boshin War (1868-69)*, *Bakumatsu-Meiji Symposium - Doing Research on Bakumatsu and Meiji Japan in the 21st Century (3-4 November 2016, University of Napoli "L'Orientale" - Palazzo Du Mesnil)*, 2016年11月, 国際会議・研究発表

ベルテッリ・ジュリオ・アントニオ「未知なる世界と交渉して—1866年の日伊修好通商条約とその歴史的意義」, 「日伊国交150周年—日本及びイタリアにおける過去・現在のビジネス法」, 2016年10月26日, 於: イタリア文化会館・東京(Auditorium Umberto Agnelli), 2016年10月, 国際会議・研究発表

Bertelli Giulio Antonio, *The role of Italian diplomats in Japan from the end of the Edo period to early Meiji era*, *The 2nd EAJS(European Association for Japanese Studies) Conference in Japan (Sep.2016, Kobe University)*, 2016年09月, 国際会議・研究発表
〔図書〕(計4件)

友田昌宏(編著)、ベルテッリ・ジュリオ・アントニオ、西澤美穂子、他4名『幕末維新期の日本と世界—外交経験と相互意識—』, 吉川弘文館, ISBN978-4-642-03883-6, 2019年02月, 専門著書, 共著総ページ数: 256(担当ページ: 167-195)

Giovanni Riccardi Candiani(編著)、Bertelli Giulio Antonio(編著)、Tomaso Ricardi di Netro(編著), *...alla corte imperiale giapponese - Resoconto del viaggio della regia pirofregata Giuseppe Garibaldi, 1872-1874*, Edizioni Libro d'Oro, ISBN978-88-8262-280-0, 2018年09月, 一般著書, 共著, 総ページ数: 213(担当ページ: 17-26, 本文註釈の一部)

Teresa Ciapparoni La Rocca(編著)、Bertelli Giulio Antonio(編著)、他13名, *SETA - Il filo d'oro che uni' il Piemonte al Giappone*, Silvana Editoriale, ISBN9788836641215, 2018年09月, 一般著書, 共著, 総ページ数: 128(担当ページ: 25-29, 編集)

Paolo Villani, Luca Capponcelli, Naomi Hayashi(編) Bertelli Giulio Antonio、他17名(著), *Riflessioni sul Giappone antico e moderno III*, Aracne Editrice, ISBN978882551465, 2018年07月, 一般著書, 共著, 総ページ数: 456(担当ページ: 201-234)